

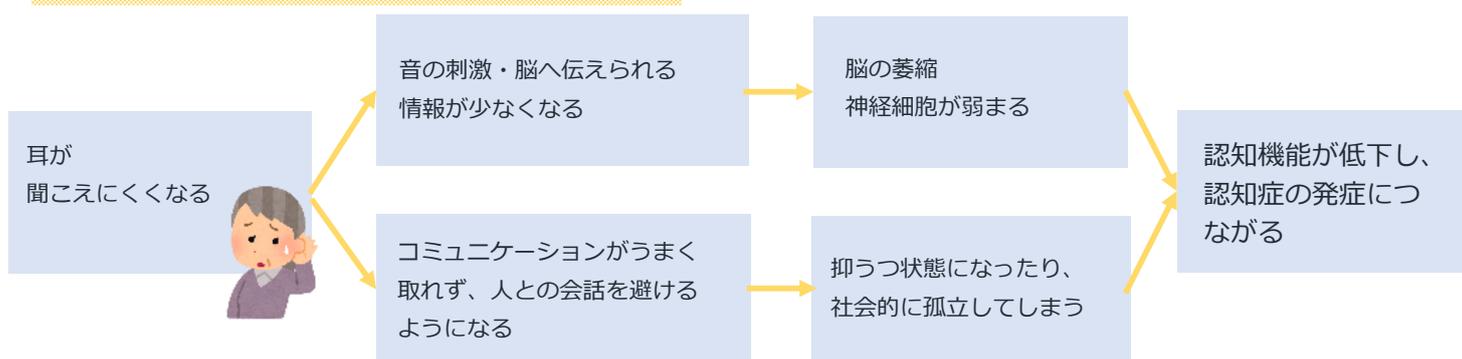


こんにちは。セントケアです。
セントケア便りは、皆様の生活の中でご活用いただける健康や暮らしの情報を定期的にお伝えさせていただいております。
ご意見・ご要望等ございましたら、発行元までご連絡ください。

難聴（※）と認知症の関係について

2017年国際アルツハイマー病会議において、「難聴」は高血圧・肥満・糖尿病などとともに認知症の危険因子の一つに挙げられました。
さらに、2020年には「予防可能な40%の12の要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」と指摘がされています。

なぜ、難聴が認知症のリスクになるの？



難聴に対処することで認知症は予防できる？



耳が聞こえにくくなるのが認知症の発症につながる可能性があるということは、難聴に対処することで認知症が積極的に予防できることも意味しています。つまり、補聴器をつけるなどして難聴に正しく対処し、適切な「聞こえ」を維持して脳を活性化し、さらに家族や友人とのコミュニケーションを楽しんでいけば、認知症を予防したり、発症を遅らせる可能性が高いというわけです。

聴力の低下を感じたら、決して放置せずなるべく早く対処しましょう。

聞こえを補う医療機器として「補聴器」があります。聞こえに困ったときは、耳鼻科の補聴器相談医に相談をしましょう。
補聴器相談医はネットで検索ができます。

補聴器相談医とは



補聴器相談医は聞こえが不自由を感じるようになった人に対して、耳の状態を診察し聴力検査を行い、難聴の種類を診断します。治せる難聴に対しては治療を行い、治せない難聴に対しては補聴器が必要なのかどうかを診断し、必要があれば専門の補聴器販売店を紹介し連携してその人に合った補聴器を選びます。また、補聴器が決まった後も、聴力が悪くなっていかないかの経過観察を行い、適切な補聴器の使い方の指導も行っていきます。

加齢性難聴はそれぞれの個人差が大きいいため、専門家のもとで自分の耳がどの程度聞こえるのか把握する必要があります。認定補聴器専門店では聞こえの状態に合わせて、認定補聴技能者が補聴器を調整、購入後の調整やメンテナンスを実施します。補聴器の聞こえ方に慣れるのに時間がかかる場合もありますが、大体1～3ヶ月で慣れるとされています。

補聴器は医療費控除が受けられる

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定の補聴器相談医を受診して、「補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)」により、補聴器が診療等のために直接必要である旨を証明している場合には、補聴器の購入費用(一般的に支出される水準を著しく超えない部分の金額に限る)は、医療費控除の対象になります。